

原子力緊急時対応と 放射性廃棄物処理・処分を 支える高度人材育成事業

**2020年度
より
新規開設**

プログラムの 目的

福島原発事故から9年が経過し、原子力政策の最重要課題が事故後の環境評価から廃炉へ向けた放射性廃棄物の処理・処分へ移りつつあります。そこで、本学でこれまでの実施してきた「原子力災害による環境・生態系影響リスクマネジメントプログラム」を発展させ、地層処分をゴールとする放射性廃棄物の処理・処分へ向けた地球科学の基礎知識・応用研究を学ぶための特別プログラム「原子力緊急時対応と放射性廃棄物処理・処分を支える高度人材育成事業」を開始します。

国内外の教育ネットワークによる 体系的なカリキュラム

<p>基礎 コース (講義5科目)</p> <p>エキスパート コース (7科目)</p> <p>グローバル エキスパートコース (全9科目)</p>	環境放射能 動態解析論	放射性核種や放射線の基礎から大気、森林、土壌、河川、海洋などの環境中での動態、モデリング手法について 解説します。(4-6月/全10回)
	原子力災害環境 影響評価論I	日本原子力研究開発機構の講師により、機構が取り組む福島復興事業や廃棄物処理・処分事業について解説します。(7月集中/全10回)
	原子力災害環境 影響評価論II	産総研・量研機構・国環研などの講師により、事故後の環境影響評価や除染対策、環境モニタリングについて解説します。(7月集中/全10回)
	地質災害・地層 環境評価論	地層処分の概要と地層処分事業に関わる地球科学の 基礎、地層、地形、地下水流動等の評価方法について解説します。(7月集中/全10回)
	原子力災害 特別セミナー	海外を中心に講師を招へいし、最先端の研究トピックを紹介します。(不定期/全3回)
	環境動態解析学 国内実習	福島県内のモニタリング調査地を訪問し、森林・河川・土壌中の放射性核種のモニタリング手法を学ぶとともに、そのデータの解析方法を身に付けます。(8-9月集中)
	国内 インターンシップ	日本原子力研究開発機構、農研機構東北農業研究センター、国立環境研究所、福島県環境創造センター等において、研究計画を作成し、それに沿った研究を実践します。
	環境動態解析学 海外実習	海外の原子力災害被災地や放射性廃棄物等の関連施設を訪問し、講義やフィールド実習を通じて現状と課題について学習します。(8-9月集中)
	海外 インターンシップ	海外連携機関において、開催されている講義コースを受講するか、受け入れ担当者との相談して研究計画を作成し、それに沿った研究を実践します。

2020年海外実習(アメリカ)

サバンナリバー核施設漏洩事故や高レベル放射性廃棄物処理・処分の研究開発施設であるサバンナリバー国立研究所、Waste Isolation Pilot Plant等を訪問します



履修科目数に応じて、旅費支援を行います！

◀サバンナリバー漏洩事故跡地

科目数に応じて、プログラム修了証を授与 筑波大学外の方でもご参加いただけます

※学外の方は、正式な単位としての認定はできませんのでご注意ください

協力・連携機関

【国内】日本原子力研究開発機構、量研機構、原子力規制庁、国立環境研究所、産業技術総合研究所、農研機構、福島県環境創造センター、富山大学、北海道大学

【海外】IAEA、サバンナリバー国立研究所(米)、サバンナリバー生態研究所(米)、Waste Isolation Pilot Plant(WIPP, 米)、Institut de Radioprotection et de Surete Nucleaire (IRSN, 仏)、ウクライナ水文気象研究所、ウクライナ農業放射能研究所、コロラド州立大学(米)、ウィーン大学(奥)、リバプール大学(英)、プリマス大学(英)、ポーツマス大学(英)、シェフィールド大学(英)、Center for Ecology & Hydrology(英)、ノルウェー生命科学大学環境放射能研究所(CERAD) ほか多数

